

G

グランシップマガジン
[ジー] vol.25

GRANSHIP magazine
WINTER 2004

SPECIAL - 1
HOW TO GRANSHIP

グランシップ 大活用術

次代を創る顔

ジャズピアニスト 上原 ひろみ

しずおかアーティスト・リレー

彫刻家 御宿 至

SPECIAL - 2

県民オペラ、再び!

SERIES わが羅針 第25回

岸田 今日子

村松友視の文化漫遊⑪

グランシップの鍵

貸します

その鍵は、
特別な人のためのものではなく、
いうなれば、みんなのものだ。
何千という人を集める大ホールも、
仲間と趣味を楽しむ小さな練習室も、
いつでも、誰でも、どんなことにも。
ただ、一人でも多くの人の
さまざまな喜びのために。
グランシップの鍵、貸します——

HOW
TO
GRANSHIP

術 用 活 大 プ

クチコミで広がる、スペース・レンタルの輪。 「使って楽しむ」 グランシップへの招待。



意外なシーンにハイハイと遭遇！

最近、テレビなどを見ていて、「もしや、あの場所は…?」と思うことがあるかもしれない。その“もしや”は正解。“あの場所”はグランシップである。

たとえば、静岡朝日テレビのCMジャンクション“あさひるパンパン”で、彼らが踊っている場所はグランシップ広場。バックに見え



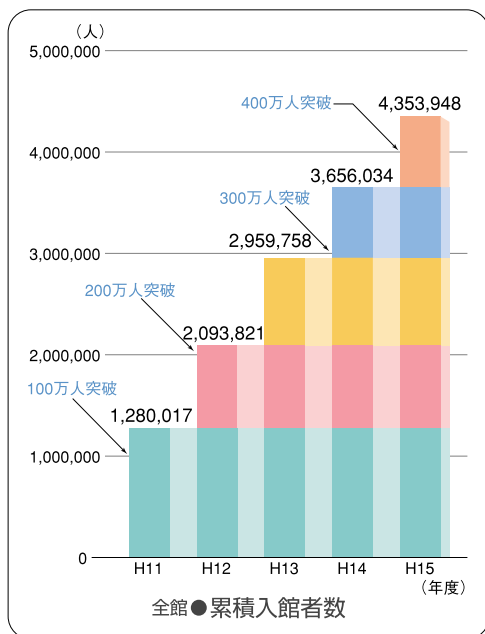
2004年4月～9月に放送されたあさひテレビ企業広告スポット

るのは、大ホール・海の大扉だ。また、この夏に放送されたフジテレビ系ドラマ『ウォーターボーイズ2』で、ヒロイン矢沢菜（石原さとみ）ら吹奏楽部が演奏するホールは、中ホール・大地だった。近頃はテレビ画面の中でも活躍のグランシップ。ぜひ、チェックしてみて。

全国平均を上回る稼働率。
そのヒミツとは？

右のグラフは、グランシップの稼働率（全館・平均）を表したものである。ご覧の通り、約6割ラインからスタートした稼働率も、5年目には7割を大きく超えている。全国で実施された「施設利用実績」によると、貸施設の公共施設を含めた稼働率は6割前後であり、7割をゆうに超えるグランシップは、全国でもかなり高い稼働率を誇っている。

高い稼働率の理由はいくつかあるが、ハードのよさと手頃な料金設定である。そのバリューは、一度利用していただければわかるはず。実際、利用した方々の大半はリピーターとなり、さらに自らクチコミ・プロモーションを担い、利用者の輪を広げる一翼に、という構図ができてあがりつつある。

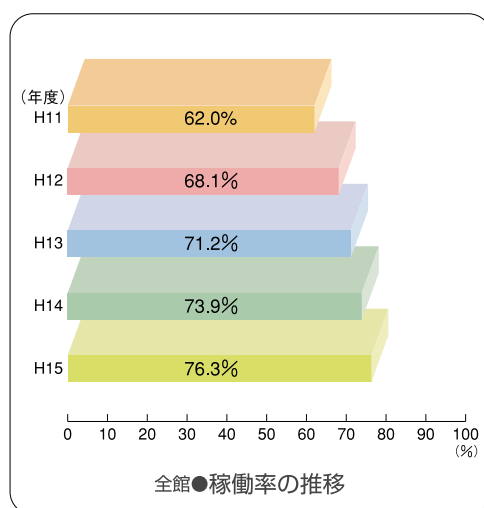


1999年3月の開館から5年と半年。この間にグランシップを訪れた人は、すでに450万人を突破した。静岡県の総人口が376万人だから、県民全員が少なくとも1回以上はグランシップに足を踏み入れた計算になる。

開館の年、イベントのためにやって来たあるアーティストが「静岡といえば、富士山。地図上でも真ん中あたりで「気」の中心は静岡にあるんじゃない?」と語ったが、なにかを呼び寄せる「気」は、確かにそこに存在したようで、ときに壮大、ときに異色な魅力あるイベントが次々と立ち上がり、県内はもちろん、国内外から実に多くの人々がグランシップを訪れた。

しかし、大切なことは、単に来館者数を積み重ねることだけではない。もっと多くの方にもっと多面的に利用してもらうこと。そんな思いから、今回はグランシップのスペース利用のあれこれを一特集。参加するグランシップから、使って楽しむグランシップへ。さっそく、その鍵を開けてみよう。

この数字にアナタは入ってる？
来館者450万人突破。



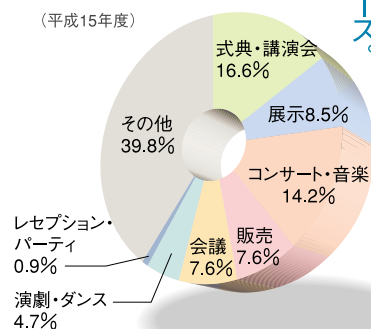
グランシップ

データで大解剖！ どう利用する？グランシップ。

変幻自在！用途多彩な大スペース。

大ホール 目的別利用状況

(平成15年度)



これほど利用目的が多岐にわたるホールはない。入学・入社式から、ドッグショー、マーチング、コンサート、見本市まで。まさにイベントの数だけ使い方が広がるスペースだ。

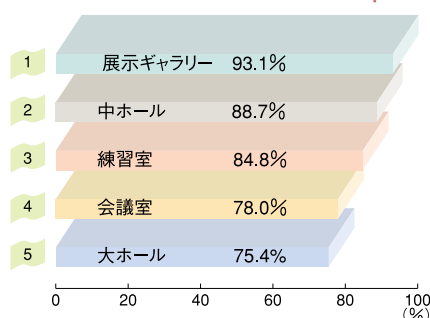
週末の競争率高し！
キャンセル狙ってこまめにチェック。

人間というのは不思議なもので、示し合わせたワケでもないのに、同じようなときに同じような行動に出るものだ。だから、一人でも多くの方にグランシップの利用を……という思いは本物だが、希望の日に希望の会場がおさえられるかどうかは別の話。とにかく早めのお申し込みを。手頃な練習室やリハーサル室などでは、リピーターの方が複数日に予約を入れていることもあり、キャンセルなども出やすい。空き状況※は随時インターネット(<http://www.granship.or.jp>)でも検索できるので、こまめにチェックを。※ただし、最新空き情報の確認・お申し込みは必ずお電話で!!

競争率の高さこそ、魅力の証！

全館 高競争率ホールベスト5

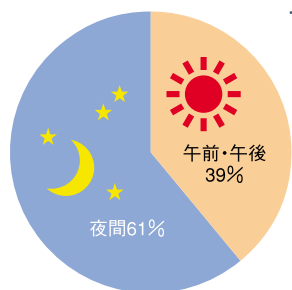
施設別稼働率 (平成15年度)



予約をとるのが最も難しいのが展示ギャラリー。1週間、2週間の長期催事が多いため、通年にわたり、まんべんなく競争率が高い。しかし、大・中ホール、会議ホールなども、週末はかなり高めだ。

夜は、レスタインタイム！

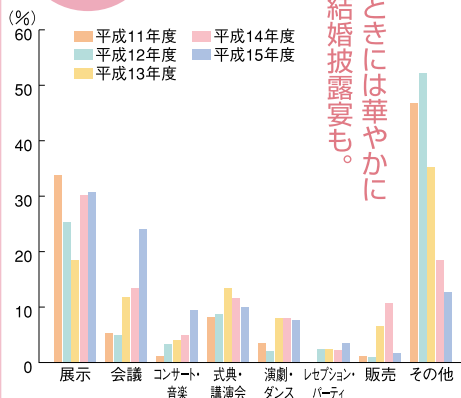
リハーサル室 練習室 区別稼働率



フローリングの練習室なら、ダンスレッスンにも最適。夜(17:30～22:00)は1,400円～で借りられるから、会社帰りのレッスンにもピッタリ。リピーターが多いのもうなずける。

交流ホール 目的別利用状況の推移

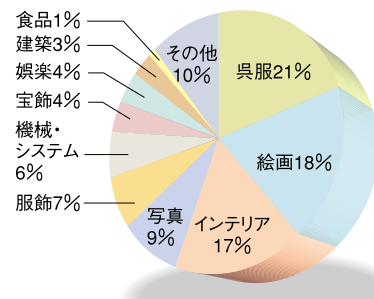
※交流ホール詳細P28参照



開館当初、ギャラリー的使用の傾向が強かった交流ホール。しかし、ここ数年、目的が分散化。空間イメージの良さや飲食可能なことからパーティなども増えつつある。

ときには華やかに
結婚披露宴も。

展示ギャラリー 展示催事におけるジャンル割合



(平成15年度)

展示ギャラリーでは、「展示催事(販売を含む)」が全体の80%以上を占めており、その内訳が上の数字である。その他は、学会や文化祭等大規模なイベントの1会場として使われている。

のぞくたびに異世界が展開。



新フロアガイドができました！
[日本語版] [英語版]



結婚式(交流ホール)



シャベウ・ランジャ応援練習(練習室2)

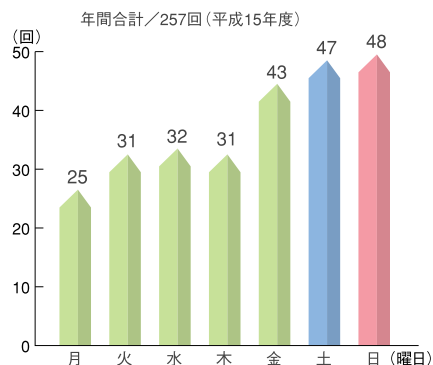
グランシップとしては、利用される方々の利用法に「なるほどね!」と膝を打つことがある。たとえばこの夏、会議室では、連日ある高校の夏期講習が行われていた。猛暑と雑音をよそに勉強に集中するにはなるほど最適。また、リハーサル室では、清水エスバルスのオフィシャルサポーター「シャベウ・ランジャ」のみなさんが、応援練習をしていたり。楽器のレッスンもそうだが、グランシップなら音の問題も難なくクリア。駐車場があるのも魅力。

「意外?でもなるほど!」
利用者がおしえてくれる
的使い方。

ドゥ・ユー・リメンバー?

週末は平日の1.5倍!

中ホール 大地 曜日別 利用状況



1日に複数の催事が行われることもあるが、休館日が平日に充てられていることを考えると、平日の稼働率も決して低くはない。さすが競争率第2位を誇る人気のホールだ。

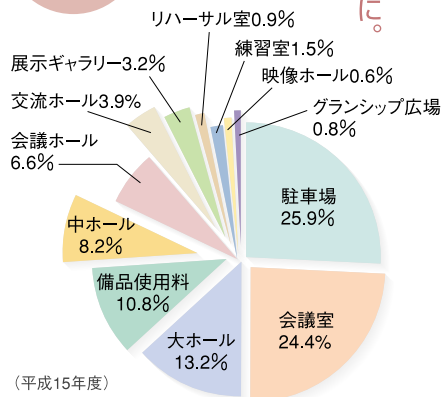
会議ホール 風 会議ホール風の魅力ベスト5

- 1 ガラス越しの富士山の眺め
- 2 ハイレベル仕様の設備
- 3 集中できる室内空間
- 4 他会議室との併用利用
- 5 手軽な料金設定

このホールの一番のおもてなしは、東側壁面に広がる大ウィンドウ。晴れた日には、窓越しに雪峰富士の姿も。「会議」の名にこだわらず、用途は実に幅広い。

利用者のみなさんに聞きました!

全館 使用料収入の内訳



平成15年度の総額は、2億1,943万2,425円。手頃な料金でより多くの方に利用していただき、その収入を利用者のニーズに合った利用しやすい施設づくりに役立てている。

使用料は、運営費の一部に。

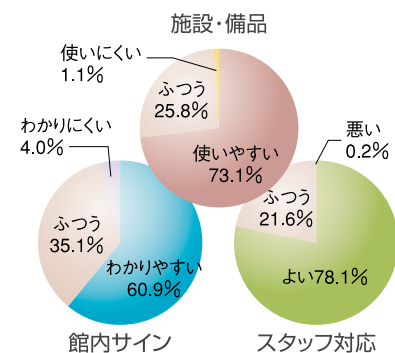
全館 過去5年間の集客ベスト5

1	世界お茶フォーラム	平成11.10.13~	大・中・会議ホール	341,494人
2	世界お茶まつり	平成13.10.1~	大・中・会議ホール	69,392人
3	第9回地域伝統芸能全国フェスティバル	平成13.10.10~	大・中ホール	58,890人
4	特別ナポレオン展	平成12.4.25~	展示ギャラリー	46,475人
5	ふじのくにフラワー&ガーデンフェア	平成13.2.20~	大ホール	40,180人

ワン・ツー・フィニッシュの「お茶」イベントは、さすがお茶どころの底力で国内外から来館。天候や季節柄を考慮してか、秋にビッグイベントが行われることが多いようだ。

全館 利用者アンケートより

(平成15年度)



開館当初、館内デザインがわかりにくいという指摘を受け、補助サインを表示するなど、グランシップは、日々改善・向上に努力。引き続き、ご意見・ご要望をお気軽に。

サービスのAAAを目指して。

スタッフがオール親切サポート。

「申し込み」から「本番」まで



TEL 054 (203) 5713



FAX 054 (203) 6710



MAIL yoyaku@granship.or.jp



URL <http://www.granship.or.jp>

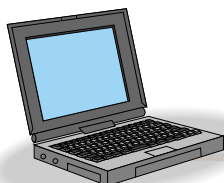


住所 〒422-8005 静岡県池田79-4 (財) 静岡県文化財団 利用サービス課(グランシップ3階)

問い合わせ



大ホールや中ホールは、利用したい日の2年前の月の初日から、会議ホールや展示ギャラリー、交流ホール、映像ホールは1年前、その他は半年前から受付スタート(国際会議や全国規模のコンベンションは、随時受付中)。空いてる?空いてない?のお問い合わせは、電話、メールなど、ご都合のいい方法でお気軽に。



空き状況は、インターネットでも検索OK!
*ただし、最新情報は必ず電話で確認を!



施設見学

お申し込み前に実際に施設を見てみたい、という方は、必ず事前にご連絡を。



申し込み



会場が空いていたら、まずは電話か財団窓口でお申し込みを。ただし、ここではまだ、予約は未完成。以降の手続きを順次お忘れなく。

仮予約受付表を提出



「仮予約受付表」(ホームページからのプリントアウトも可)に記入の上、提出。

使用承認申請書の確認・提出



使用承認書の受理



お支払い



大・中ホールは3か月半前に、その他の施設は1か月半前に請求書を発送。請求書を受け取ったら、2週間以内に振込、またはお支払いを。※備品等の追加使用料については、催事終了後に清算。

打ち合わせ

1か月前までを目途に会場担当者と細かな打ち合わせを。必要な備品・設備の確認をはじめ、座席形式・音響・照明などについてもこの機会に。会議室や練習室などは2週間前を目途に電話にて利用内容を確認。

当日受付

グランシップ3階文化財団事務室にて受付。鍵の受け渡しには、「使用承認書」が必要。

準備

照明オペレーション指導ほか

本番・開催

撤去

撤去の際は、原状復帰が基本。撤去後、グランシップ側のスタッフが確認。

終了

グランシップ利用の虎の巻!



「施設利用案内」ご希望の方にお渡しする「施設利用案内」は、まさに利用の手引き。次回のご利用の参考にも。
※郵送可

施設使用料金表

区 分			使用料(単位:円)					
			午前 (9:00～12:00)	午後 (13:00～17:00)	夜間 (17:30～22:00)	午前～午後 (9:00～17:00)	午後～夜間 (13:00～22:00)	全日 (9:00～22:00)
大ホール 海	入場料なし及び 1,000円以下	平日	56,000	85,000	127,000	141,000	212,000	245,000
		土日休日	68,000	102,000	152,000	170,000	254,000	293,000
	入場料 1,001円～3,000円以下	平日	75,000	113,000	169,000	188,000	282,000	325,000
		土日休日	90,000	136,000	203,000	226,000	339,000	391,000
	入場料3,001円～5,000円以下 営利目的の利用	平日	94,000	141,000	211,000	235,000	352,000	406,000
		土日休日	113,000	170,000	254,000	283,000	424,000	489,000
	入場料 5,001円以上	平日	113,000	170,000	254,000	283,000	424,000	489,000
		土日休日	141,000	212,000	317,000	353,000	529,000	611,000
中ホール 大地	入場料なし及び 1,000円以下	平日	25,000	38,000	57,000	63,000	95,000	110,000
		土日休日	30,000	46,000	68,000	76,000	114,000	132,000
	入場料 1,001円～3,000円以下	平日	34,000	51,000	76,000	85,000	127,000	146,000
		土日休日	41,000	61,000	91,000	102,000	152,000	176,000
	入場料3,001円～5,000円以下 営利目的の利用	平日	42,000	63,000	95,000	105,000	158,000	182,000
		土日休日	51,000	76,000	114,000	127,000	190,000	220,000
	入場料 5,001円以上	平日	51,000	76,000	114,000	127,000	190,000	220,000
		土日休日	63,000	95,000	143,000	158,000	238,000	275,000
交流ホール	入場料なし及び 1,000円以下	平日	20,000	30,000	44,000	50,000	74,000	85,000
		土日休日	24,000	35,000	53,000	59,000	88,000	102,000
	入場料 1,001円～3,000円以下	平日	26,000	39,000	59,000	65,000	98,000	113,000
		土日休日	32,000	47,000	71,000	79,000	118,000	137,000
	入場料3,001円～5,000円以下 営利目的の利用	平日	33,000	49,000	74,000	82,000	123,000	142,000
		土日休日	39,000	59,000	89,000	98,000	148,000	171,000
	入場料 5,001円以上	平日	39,000	59,000	89,000	98,000	148,000	171,000
		土日休日	49,000	74,000	111,000	123,000	185,000	213,000
映像ホール			7,600	10,200	11,400	17,800	21,600	29,200
展示ギャラリー 1			7,200	9,600	10,800	16,800	20,400	27,600
展示ギャラリー 2、3			2,100	2,800	3,200	4,900	6,000	8,100
会議ホール・風			36,900	49,100	55,300	86,000	104,400	141,300
会議室 901～903、905～907、909			2,400	3,300	3,700	5,700	7,000	9,400
会議室 904、908、1002			4,400	5,800	6,600	10,200	12,400	16,800
会議室 910、1001-1			10,200	13,700	15,400	23,900	29,100	39,300
会議室 1001-2			15,300	20,500	23,000	35,800	43,500	58,800
会議室 1003、1101、1202、特別室			3,300	4,400	5,000	7,700	9,400	12,700
会議室 1004、1201			1,500	1,900	2,200	3,400	4,100	5,600
リハーサル室			4,600	6,200	6,900	10,800	13,100	17,700
練習室 1、2			1,800	2,300	2,600	4,100	4,900	6,700
練習室 3、4			900	1,300	1,400	2,200	2,700	3,600
大ホール楽屋 4～7、13～16 / 定員数 5名			400	500	600	900	1,100	1,500
大ホール楽屋 2、3、8、9 / 定員数 12～16名			600	900	1,000	1,500	1,900	2,500
大ホール楽屋 1、10 / 定員数 37～38名			1,300	1,700	1,900	3,000	3,600	4,900
大ホール楽屋 11、12、17、18 / 定員数 2名			800	1,100	1,200	1,900	2,300	3,100
中ホール楽屋 2～5 / 定員数 2名			400	500	600	900	1,100	1,500
中ホール楽屋 8、9 / 定員数 10～12名			600	900	1,000	1,500	1,900	2,500
中ホール楽屋 6、7 / 定員数 20名			1,100	1,500	1,700	2,600	3,200	4,300
中ホール楽屋 1 / 定員数 2名			800	1,100	1,200	1,900	2,300	3,100
区 分			9:00～13:00		13:00～17:00		17:00～21:00	
グランシップ広場	全面使用の場合		33,600		33,600		33,600	
	半面使用の場合		16,800		16,800		16,800	

注意事項

- 商業宣伝、営業等を目的として使用する場合は、大ホール、中ホール、交流ホールについては、「入場料3,001円~5,000円以下」の区分を適用し、その他については、当該区分の額の100分の200を乗じた額とする。
- 練習、準備又は撤去のために使用する場合は、大ホール、中ホール、交流ホール、会議ホールについては、「入場料なし」の区分の額の100分の50を乗じた額とする。

有料備品等、詳しい資料をご希望の方は、(財)静岡県文化財団 利用サービス課(グランシップ3階) Tel.054(203)5713 Fax.054(203)6710まで、お問い合わせ下さい。

県民オペラ、 再び!

長野オリンピックの開会式。

そのクライマックス、聖火点灯のシーンで
厳かに流れた、ひとつのアリアを覚えているだろうか。
それはあらゆるオペラの中でも世界中でもっとも親しまれ、
とりわけ日本人に愛され続けているアリア。

プッチーニのオペラ『蝶々夫人』第二幕で歌われる
〈ある晴れた日に〉～Un bel di vedremo～だった。
イタリア・ミラノの初演から、ちょうど丸一世紀。

その曲はなぜ、今なお人々の魂を揺さぶるのだろう。
なぜ、日本人の心の奥底に語りかけるのだろう。
その謎解きをすべく、いざ、春のグランシップへ。

静岡県ゆかりの音楽家が集結し、
いま、県民オペラが再び立ち上がる――。



Giacomo Puccini
Madama Butterfly

デザイン画／松田あゆみ
(清水南高校)

「新しいキャストをどう生かし、 いかに充実したドラマに仕上げていくか、ですね」(伊藤京子)

『蝶々夫人』は、一九〇〇年頃の長崎を舞台にした悲恋物語である。当時、ヨーロッパでは空前の日本ブームで、プッチーニはロンドンで観た芝居『蝶々夫人』にいたく感動し、すぐにオペラ化を決意。しかし、その初演は散々だったという。その後、改作を重ね、現在、上演されているのは、第四版にあたる。

静岡県出身の両親の間に生まれ、やがて留学先のロンドンで日本人初のプリマドンナとなったソプラノ歌手、三浦環が、蝶々夫人を演じたのは、ミラノでの初演から十二年後、一九一六年のことだった。以来、このオペラをもっとも得意とした彼女。そんな日本の歌姫について、プッチーニはこう語っている。『蝶々夫人』は彼女のために作られたようなものだ』と。静岡県では、三浦環の功績を讃え、三年に一度、国際オペラコンクールを開催。そして、来年度第四回を迎える。そのイベントとして、立ちあげられた県民オペラは今回で二回目となる。

芸術監督を務める伊藤京子氏はいう。
「前回とはキャスティングから違いますから、演出される中村さんがこれらの人材をどう生かし、いかに充実したドラマに仕上げていくか。そこが見どころになっていくと思いますね。そして、何といてもオペラは声が命。蝶々さんをはじめ、歌い手の皆さんが一番いい状態で本番に臨んでいただきたいですね」
その名の通り、静岡県ゆかりのプロアマチウアの音楽家たちが参加し、つくりあげる大舞台に、今、第一回にまさる期待が寄せられている。

『蝶々夫人』をオペラとして観たことはなくとも、そこに使われているメロディに「あつこれは……」と思わず近しい感情を抱く。それもこのオペラの日本人気のヒミツかもしれない。さくらさくら 越後獅子 お江戸日本橋……と、散りばめられた古き良き日本の名曲たち。聞くところによると、プッチーニはこれらの旋律を当時お気に入りだった日本のイタリア公使夫人に教わっていたらしい。

さて、独特の美しいメロディと可憐なヒロインを描くことで知られるプッチーニだが、歌い手の立場から見ると、そうそう喜んでばかりもいられないようだ。

「声楽的に言いますと、蝶々さんの役はソプラノ冥利につきるというかと、とても大変なんです。出ずっぱりで、第三幕まで声をコントロールしていかねばなりません。さらに日本人が日本人を演じますから、着物を正式に着て、重い髪もつけなくては。そういったうえで幸せの絶頂から、空しく待つ身へ、そして、絶望まで。それぞれの蝶々さんを演じていかなければなりませんね」(伊藤氏)

しかも原語、イタリア語での上演である。蝶々さんを演じる清水知子氏をはじめ、出演者の稽古が、一〇月下旬よりスタート。本番まで四か月半、合唱として参加の音楽家たちには、一層の努力が要されることだ。

「でも、原語でやる以上は、恥ずかしくないイタリア語でやりたいですからね。簡単ではありませんが、でも、静岡県に関係のある方々が、全力を振り絞って挑戦しますので、ぜひぜひ聞いて、楽しんでいただきたいと思いますね」(伊藤氏)

「ソプラノ冥利につきる蝶々さん役。 声のコントロールが最後、第三幕まで続きます」(伊藤京子)

写真:第1回県民オペラ『蝶々夫人』より





「日本人のDNAに響く旋律が盛り込まれた『蝶々夫人』を、ぜひ、多くの方にお楽しみいただきたいですね」



芸術監督 伊藤京子

'49年ベートーヴェン「フィデリオ」マルツェリーナ役でデビュー。'51年「トゥランドット」リュウでオペラデビュー。以来「フィガロの結婚」「魔笛」「椿姫」「蝶々夫人」など多数のオペラで主役を歌う。'68年芸術選奨文部大臣賞、'88年紫綬褒章、'96年勲三等瑞宝章、中日文化賞など受賞歴多数。国立音楽大学名誉教授、常葉学園短期大学客員教授、日本芸術院会員。



指揮 上野正博

東京芸術大学卒業、同大学院修了。ティミトリー・ミトロプーロス国際指揮者コンクール最高位ほか、受賞歴多数。これまで東京フィルをはじめ、海外では国立ワルシャワ・フィルなど多くのオーケストラを指揮し、好評を得る。「フィガロの結婚」「魔笛」などオペラ作品も多い。愛知県立芸術大学オペラ非常勤講師。

「音楽的にも揺れがあり、難しい作品ですが、日本人ならではの蝶々さんが演じられればいいと思います」



蝶々夫人役 清水知子

武蔵野音楽大学卒業、同大学院修了。イタリア・フィレンツェに留学。第17回ヴィオッティ・ヴァルセリア国際コンクールオペラ歌唱部門第1位、第3回国際オペラコンクール in Shizuokaにて三浦環賞受賞ほか受賞歴多数。「フィガロの結婚」「魔笛」「椿姫」など広く活躍。藤原歌劇団団員。



演出 中村敬一

武蔵野音楽大学卒業、同大学院修了。ウィーン国立歌劇場でオペラ演出を研修。二期会「三部作」、東京室内歌劇場「ヒロシマのオルフェ」、日生劇場「笠地蔵・北風と太陽」で演出力を絶賛され、'95年ジローオペラ新人賞受賞。声楽家指導、オペラ普及に尽力。国立音楽大学、大阪音楽大学講師。

「愛の二重唱で盛り上がる一幕と、悲しみの再会の場面と。それぞれの美しさ、深さをお楽しみに」



ピンカートン役 梅原光洋

愛知芸術大学卒業。京都市立芸術大学大学院修了。「椿姫」ジェルモン役にてオペラデビュー。'99年よりイタリアにて研鑽を積み、バリトンからテノールに転向。第17回飯塚新人音楽コンクール声楽部門第一位、第24回イタリア声楽コンコルソシエナ部門金賞受賞。藤原歌劇団団員。

Story

第1幕

舞台は明治初期の長崎。アメリカ海軍中尉ピンカートンは、寄港の折、仲介人ゴローの口利きで、家が没落し芸者となった15歳の蝶々さんと結婚式を挙げる。蝶々さんはキリスト教に改宗し彼を愛するが、彼にとっては異国の恋だった。

第2幕

第1場：3年後。蝶々さんは一人息子を育てながら、夫が日本を去る前に言った「駒鳥が巣を作る季節に戻る」という言葉を信じ、その帰りを待っている。そんな姿に女中スズキは心を痛め、領事館シャープレスも本国でピンカートンが結婚したことを告げることができずに引き返す。やがて大砲が聞こえ、リンカーン号が入港すると蝶々さんは喜び、夫の帰宅を夜通し待つ。

第2場：翌日、妻ケイトを伴ってやって来たピンカートンは、スズキから話を聞き、罪の呵責からすべてを託して去ってしまう。すべてを悟った蝶々さんは、ピンカートンに子どもを渡すことを約束し、息子を抱きしめた後、父親が自決の時に使った短刀で喉を突いて果てる。



ジャコモ・プッチーニ
Giacomo Puccini (1858-1924)

ルッカの大聖堂オルガニストの家に生まれ、宗教音楽家の道を志すが、18歳の時「アイダ」を観て一変。ミラノ音楽院に入り、オペラ作曲家を決意する。25歳で「交響的綺想曲」発表。その後、「マノン・レスコー」「ラ・ボエーム」「トスカ」「蝶々夫人」と傑作を世に送った。



ライブは、一期一会の出来事。

茂木 大輔 (NHK放送交響楽団 首席オーボエ奏者)

10/11 静岡コンサートにゲストとして参加。
来年2/11「新世界交響曲」にも指揮、お話役として参加。

開館以来、大・中ホールをはじめ、交流ホール、会議ホールと、ほとんどのホールで演奏させていただいてますから、野球ならさしずめサイクルヒットですよ。(笑)今の時代、わざわざお金を払って、ある空間に集まって音楽を聴くということ自体、特殊だと思えます。インターネットもテレビもありながら、あえて集まるならば、CDでは提供できない音楽会でなければ。極論

すれば、ライブの魅力はその日その時間その場所に集まった人だけが体験できる、一期一会の出来事にある、と思っています。全国、世界、いつでもどこでも同じ選曲、同じ企画で使い回すのではなく、ひとつのコンサートごとにその聴衆、ホール、季節などもふまえた、完全に毎回新しいオリジナル企画を作っていくことが僕にとって重要であり、また楽しみでもあります。グランシップ

で展開してきたこれまでの試みは、まさにそれらの参考になると思うんです。来年2月の「新世界交響曲」コンサートではどういう作品か、ドヴォルザークはどういう人か、どう表現したかったのかをわかりやすくお話しすることでクラシックの楽しみ方を増やしていくのも僕の務めだと思っています。次に静響を聴くときに興味が増している。そうなれば嬉しいですね。



シャープレス役 田代和久
東京学芸大学・大学院、東京芸術大学大学院修了。芸大定期にてバッハ「マタイ受難曲」他、宗教曲にソリストとして出演。東京オペラ・プロデュースを中心にワーグナー「恋愛禁制」等のオペラに主要な役で出演。日伊音楽協会会員。二期会会員。

「やさしさと厳しさを合わせ持つ領事役。素晴らしいキャストの皆さんとともに創りあげたい」



スズキ役 桜谷清美
名古屋芸術大学卒業。名古屋二期会オペラ「カルメン」「ラ・ボエーム」等に出演。故 中野二郎の童心歌曲を同氏の生前、研鑽・演奏し、大反響を受ける。これを機に新鋭作曲家作品の演奏会を開催。浜松市の小・中学校オペラ巡回教室、市民オペラ等に参加。浜松市民オペラ協会会員。

「とにかく舞台の上に気持ちを預けて。まさに悲劇の神髄。心から感動し、泣けるオペラです」

第4回静岡国際オペラコンクール プレイベント

第2回県民オペラ

「蝶々夫人」(イタリア語上演) (日本語字幕付)

12/19(日)
チケット
発売

2005.3/11 fri. PM6:00開場 PM6:30開演
13 sun. PM1:30開場 PM2:00開演

グランシップ 中ホール・大地

全席指定(税込) S席 4,500円 A席 2,500円 学生席(大学生以下) 1,000円

主催/第2回県民オペラ実行委員会、静岡国際オペラコンクール実行委員会、財団法人静岡県文化財団

Madama Butterfly
Composed by Giacomo Puccini

芸術監督/伊藤京子 指揮/上野正博 演出/中村敬一

cast/蝶々夫人	清水知子(第3回三浦環特別賞受賞者)	合唱/澤田洋一	川村有香	澤井妃巳乃
ピンカートン	梅原光洋(静岡市出身)	竹内良雄	菊地康子	辻村幸子
スズキ	桜谷清美(浜松市在住)	横山勝太郎	岸 智子	中野恵利
シャープレス	田代和久(御殿場市在住)	八木孝雄	木谷朋子	中村志保
ゴロー	望月光貴(富士宮市出身)	高柳 豊	絹村晶子	村田美幸
ケイト	伊藤祐子(静岡市在住)	有賀美聡	倉前美華	山下梨江
ヤマドリ	下村信幸(静岡市在住)	井上知美	甲田貴美子	
ボンゾ	白鳥 哲(静岡市在住)	植村佐紀子	酒井理江	
神官	牛尾次郎(島田市在住)	風間優子	佐藤嘉子	
ヤクシデ	三浦正貴(藤枝市在住)	片平有紀	佐藤蘭子	

岸田 今日子

言葉。その音が投げかけるもの。

「本を読むときには、活字が想像力を掻き立てる。けれど、言葉を音として聞かされたときには、その音が投げかける強さややかさ、高さ、低さが一人ひとりに届いて、おそらく一人ひとり違う想像力で受けとめられるのではないかと思うんです」

歯切れのいい向田作品。

ラジオドラマで育ったというその人は、言葉だけで人をどこまで連れていくことができるか、今でもそこに興味があると語った。最近では、声一つで性格や健康状態がわかるというが、その人の声には科学の及ばない特別な力が宿っているに違いない。まるで魔法の杖やマジック・カーペットのように、聴覚からやがて身体中の感覚を刺激して、ひととき、遙かなる童話や小説の世界、不思議の世界へと我々を連れ出してくれるのだ。

——この十二月、グランシップで『言葉のコンサート』が開かれるとのこと。楽しみにして

いらつしやる方も多いと思います。まずはどのようなスタイルのコンサートなのか、岸田さんのほうからご紹介いただけますか。

『言の葉コンサート』は、莊村清志さんと二人だけのコンサートで、私が向田邦子さんのエッセイや短編小説を読んで、その間、莊村さんのギターが入って、もちろん莊村さんのソロのギター曲も幾つかお聴きいただけるという、そんなコンサートですね。

——向田さんとは、生前、ご親交がございましたのですか。

「親交というほどではなかったんですけど、作品もお人柄も好きでした。書いていただいた連続ドラマ『あ・うん』に出て。それが二年続きましてね。毎年このメンバーで書いていきたいわとおっしゃっていたところでああいう事故に遭われて。とても残念だったのですけれども」

——朗読される立場からお感じになる向田作品は、一読者の立場で読むものとはまた少し違うように思われるのですが、その魅力についてお聞かせいただけますか。

「一言でいったら、歯切れのよさ」でしょう。か。歯切れよく、でも非常に深いところを書いていらつしやる。だから、それを読ませていただくときには、その文体をどう伝えるかということとはとても大きいと思うんです。でも、エッセイというのは、自分としての意見を書くものでしょう。向田さんは、エッセイの中でご自身の性格を分析していらつしやるけれども、私自身は向田さんじゃありませんから。そこをあまり作者ベッタリにならないで、私が感じた向田さ

んというものがどこかに入らなくてはいけないという気もしますし。そのあたり難しいとは思いますが」

——一方、莊村さんとはこれまでも、ギターと朗読の庭」というコンサートなど一緒になさっていますが、莊村さんの魅力はどのようなところにあると思われますか。

「莊村さんは、とても寛大な方なんです。もつとお若いときには、ちよつと神経質で、細かいところまでピタッと合わない気がすまないようなところがありで、私としても神経質な方かな、合わないはずいなという気持ちだったんですけどもね。最近はどうもお変わりになって、音楽を心から楽しんでらつしやるというか、伸び伸びした感じで、一緒に一緒に仕事は楽しいですよ」

——タイトルに『言の葉コンサート』とありますが、活字として、おしゃべりの中で、あるいはお芝居など、さまざまな立場から言葉というものに関わっていらつしやる岸田さんにとって、耳から聞かれる言葉の世界とはどのようなものなのでしょう。

「言葉というのは、人間のいろんな感覚に訴えかけて、説明してくれるものだと思うんです。そうした中で聴覚というのは、想像力を刺激する上でいちばん大きなものだと思うんですね。私はラジオ育ちなんですけれども、私が研究生だった頃は、テレビなんかなくて、ラジオだけでしたから。そんなラジオドラマ全盛の時代にたくさんいい役をさせていたいただいて、たくさん台詞も言わせていただいたわけです。台詞にしても、ナレーションにしても、言葉だけで人をどこ

まで連れていくことができるか。それは聞く立場でも、やる立場としても、とても興味のあることで、そのところは今でも変わらないんですね。本を読むときには、目から入ってくる、その活字が想像力を掻き立てるわけですけれど、言葉を音として聞かされたときには、その音が投げかけるも



『大人にしてあげた小さなお話』には、「みにくいアヒルの子」や「白雪姫」など名作童話の話 - 岸田今日子自作選(1) - などでその朗読も聴ける。

あり、その可能性を試されているような気がするところですね」

——生の舞台であることも、大きな力になると思いますが。

「そうですね。たとえば莊村さんやピアニの館野(泉)さんと一緒に、音楽と朗読とがお互いに1+1じゃなくて、何か違うものを創りあげていくという面白さ。そこでその音を入れようと思ってもそうはいかないのに、ある日思いがけなく入ったみたいなことは、生でなければ味わえないことですね。お客様と楽器と一緒に創っていく空気というのは、やっぱり何物にも変え難いものだと思います。また、同じ生の舞台でも、朗読と芝居はちよつと違いますね。朗読というのは、間に役というものがなくて、私自身なわけです。私自身が好きな人に向かつて、そこにわざわざ来てくださる方たちは、そう言いたいと思うんですけど、そういう人に向かつて、私はこういところが好きです、と伝えるのが朗読だと思っているわけです。一方、芝居の場合は、役を通してある程度自分を表現するということはあっても、それはもう自分であって自分でないわけですから。表現としてはだいぶ違いますよね」

娘と、お話の契約。

——娘さんのために創りになつたお話など、ご自身の作品を朗読されたCDも発表されていらつしやるんですね。

「子どもが小さいときに本を読んであげ



【きしだ きょうこ】

女優。自由学園卒業後、文学座附属研究所を経て文学座に入る。50年に初舞台、60年「陽気な幽霊」でテアトロン賞受賞。63年劇団「雲」創立に参加、「聖女ジャンヌダーク」「マクベス」などに出演。また、75年には演劇集団「円」設立参加。「今日子」「欲望という名の電車」ほか、多くの大役、難役をこなす。映画では、62年「破戒」他で毎日映画コンクール助演女優賞受賞。64年「砂の女」他の演技でブルーリボン助演女優賞受賞。また、97年「八つ墓村」他で同賞を再受賞。テレビ出演作に「傷だらけの天使」「武田信玄」「御家人斬九郎」など。アニメ「ムーミン」の声優をはじめ、朗読家としても活躍。著書に「子どもにしてあげたお話 してあげなかったお話」「妄想の森」「もうひとりのわたし」など。文学座創立者の一人、岸田國士は父であり、姉は詩人の岸田裕子。東京生まれ。

るでしょう。でも、何冊読んでも子どもはキリがないし、こちらは眠くなっちゃう。(笑)だから、契約をして、一冊本を読んだら、電気を消して、お話をするという。そういう契約の中で、最初は『桃太郎』や『白雪姫』のお話をその場でアレンジして。たとえば『桃太郎』ですと、「だんだん大きくなりました、歯が四本生えてきました」なんて言う。すると、子どもはちよつと自分の歯が四本生えてきたときで、「あーん」と見せたりしてね。そのうちに枕でお話を創れとかスリッパでとか言い出して。それで馬鹿にされまいとして、四苦八苦して創るわけですよ。それを少し整理してレコードにしたのが最初なんです。子どもが自分で本を読むようになってからは、私自身に向かって創ったお話を本やCDにしています。」

——そうしたイメージをふくらませる術のよつなものは、小さい頃から身につけていらしたのでしょうか。会いたい人に夢で会えるという特技をお持ちだそうですね。

「好きな夢を見られるという、そういう方法は、確かにあるんですけどもね。夢というのは、私の中では相当大きな分量を持つていて、とにかく長く寝るんです。今でも九時間ぐらい寝ているんですけども。それでいっぱい夢を見るんですね。しかもそのほとんどを覚えていてるんですよ。それで翌日お目にかかるはずの人には、もう夢の中でだいたのお目にかかっているわけです。もちろん夢の通りにはいきませんけれども、一応おさらいをしておくんですね。

夢の中で台本を忘れたり、いろんなことがあつたりして、右往左往して。それで台本を忘れないようにしなくちゃ、とかね。そんなふうになつて夢というのは、とても親しいものなんです。これは謙遜でも何でもありませんけれども、小さいとき、私は落ちこぼれもいところだつたんです。小学校五年ぐらいまで、学校に行つても、そこがどういふところなのかさえ、ほとんどわからなくて。何一つ得意なものがなくて、とにかく一人でいるのが好きだつたんですね。それは今でもそうですね。けれども、だから、本を読むのが好きですし、イメージをふくらませるよつなことはよくしていました。そして、物を書いたりする時間は、私に戻る時間という感じがするんです。——最後に今後のご予定などをお聞かせください。

「十二月のクリスマスシーズンには、毎年私が企画した『子どもステージ』というのをやるんです。私は出演しないんですけども、今年は和田誠さんが『パイがいつぱいスパイもいつぱい』というお話を書いてくださつて。とても楽しいステージになると思いますよ。出版のほうでは、シヨートシヨートみたいなものというお話がありまして。月に一つづつ書いていけば、一年で本になるうていうんですけれど。せめて二か月に一度にしてくださいと言って。(笑)今、三本ぐらい書いているところです。そのほかにモロッコやルーマニアに行った話を紀行文として書いたものが近いうちに出ると思います。」



12/23 (木・祝) チケット発売中

岸田今日子「言の葉コンサート」

～向田邦子「父の詫び状」家族のプリズム～

PM1:30開場 PM2:00開演
グランシップ 中ホール・大地
全席指定(税込) 一般 3,500円 高校生以下 1,500円

朗 読 / 岸田今日子
朗読作品 / 向田邦子作「かわうそ」「父の詫び状」「字のない葉書」ほか
ギ タ ー / 荘村清志
演奏曲目 / 「星の世界」(コンヴァース作曲・武満徹編曲)
「バーデンジャズ組曲」(イルマル作曲)ほか